

## ワールドカップ

6月11日に開幕する国際サッカー連盟 FIFA ワールドカップの話題で盛り上がっていますが、前回大会、後に「三苦の1ミリ」と語られた逆転ゴールへのアシストで大活躍した三苦選手が、けがのため日本代表に選出されないという悲しいお知らせも同時に届きました。片や長友選手は、日本人選手では初となる5大会連続の選出という快挙。過去最高はベスト16。日本がベスト8に残れるのか、見ものです。

20日、清瀬中でもワールドカップが開催されるとの噂。真相を確かめるべく『KIYOSE フィールド』に向かうと、砂埃が舞っ



ています。すでにウォーミングアップが開始されていたのでした。20分という時間の中、声を出し合いながら気持ちをそろえています。アップ終了の合図と共に、放送が流れました。「間もなく、“なわワールドカップ”の試合を開始します。」私は「な?な?なわーど???」と頭の中が?に。そうなんです。ワールドカップではなく、“なワールドカップ”すなわ



ち、大縄飛びの大会であったのです。運動会の前哨戦として、縦割りのチーム対抗戦を行いました。3分間に飛んだ数の合計で競いました。見事に赤団の優勝。赤団の喜ぶ姿は輝いていましたが、優勝を逃した2つのチームの悔しさのにじみ出た表情も未来に向けて輝いています。まだまだ時間はあります。みんな、赤団の独走を許すな、ほこりをもって立ち向かえ!!

“なわワールドカップ”閉会式では、清瀬大縄連盟 KIOA 会長タカミチャンニ・クリバヤティーノ氏による講評「縦割りの団としての絆が深まったことでしょう。第2回大会が来週あります。更に絆を深め団結してください。」と生徒に語りました。後のインタビューで、「仲間意識が大変高まってきました。そんなわけで、運動会当日は、圧倒的に盛り上げてくれるはずです。」

実は、選手が軽快に飛べるように、各クラスの回し手たちは、朝練を繰り返しました。選手が飛んでの大縄回しは、引っかかってしまったら、そこで中断してしまいます。これを繰り返していると、ひとつの試技に多く回す練習ができません。50回飛ぶことを目標とするなら、50回安定して回す技術や体力を獲得しておかねばならないのに。したがって回し手だけの練習は大変有用であるのです。縄の長さ、張り具合、軌道、回転速度など、細部にわたり調整していました。



美術部も細部にわたり調整しています。スローガン“威風堂々”を横断幕にしてくれています。威風の文字を彩る炎に魂を入れるために、赤色の上に橙色を重ねて、立体感を出すのだそうです。細かいところまで気持ちの入った作品に仕上がっていきます。

今年の運動会は、選手も支える人も、細部に『こだわーどカップ』です。

“清瀬の1ミリ”で運動会をアシストしていきます。

